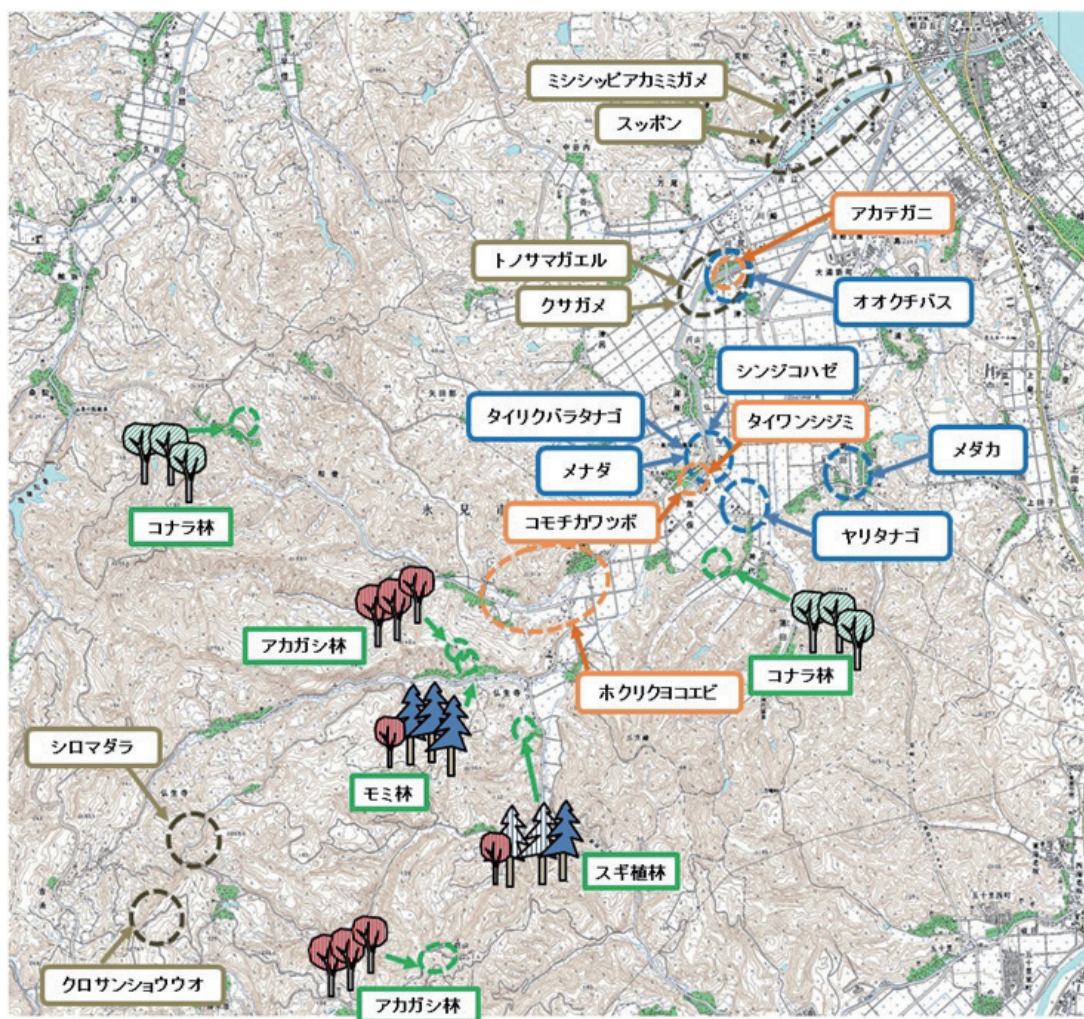


## 仏生寺川流域の生き物



仏生寺川は、氷見市南西部に位置する氷見市吉池と赤毛の間にある大坂峠（標高290m）を源に、丘陵地から田園地帯、市街地を経て富山湾に注ぐ全長約13kmの二級河川である。

平野部に下ると、三千坊山（さんぜんほうやま、標高264m）を源とする脇之谷内（わきのやち）川が大覚口（おがくち）で、十三中学校近くで左岸側より鞍骨（くらほね）川が、さらに下流域の氷見運動公園では右岸側より神代（こうじろ）川と堀田（ほりた）川がそれぞれ合流し、最後に十二町瀧の下流域で万尾（もお）川と合流している。かつて、下流域は「布施水海」と呼ばれた瀧で、万葉の歌人の大伴家持が舟遊びをした景勝地であった。一方、洪水とたたかいた場でもあったが、平成15年に下流に「仏生寺川潮止水門」が完成し、低湿地帯の乾田化事業は進んでいる。十二町瀧には市民の憩いの場として整備された水郷公園があり、そこには国指定天然記念物のオニバス発生地とイタセンバラの池がある。また、この流域では水が得にくいため、農業用のため池が多い。



河口（松田江新橋が見える）



川尻橋より



三千坊山より



吉池のため池

### [調査年と分野]

調査は2012年に実施し、調査分野は、植物（植生と森林群落）、底生動物、魚類、両生類・は虫類、ツキノワグマの採食痕跡、ほ乳類である。

## 森林群落

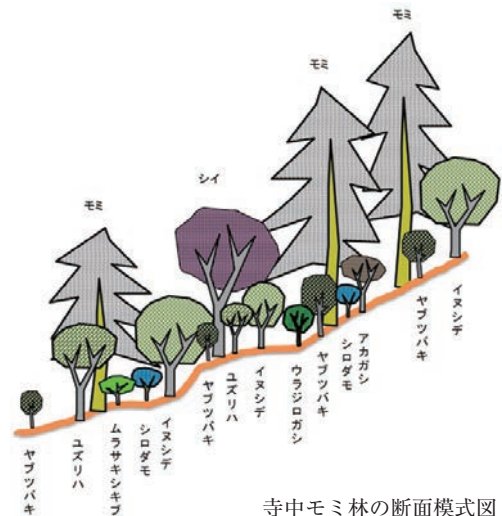
仏生寺川の流域面積は約31km<sup>2</sup>で、その内、水田等は16%、森林植生は84%であった。森林植生の中でコナラ・アカマツ林がもっとも面積が大きく、流域面積の45%を占めた。スギ植林は流域面積の39%であった。社寺林と三千坊山稜線にはアカガシ林が見られ、丘陵地にモミ林が見られた。スギとモミが混交する社寺林の基底面積合計（生物量を示す1つの数値）は、今回調査した林の中で、最も大きい値であった。また、分水嶺に近いコナラ林の種多様度は、今回調査した林の中で最も大きい値であった。



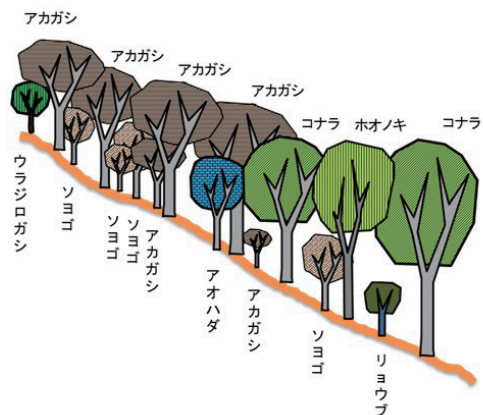
ムベ



寺中のモミ林



寺中モミ林の断面模式図

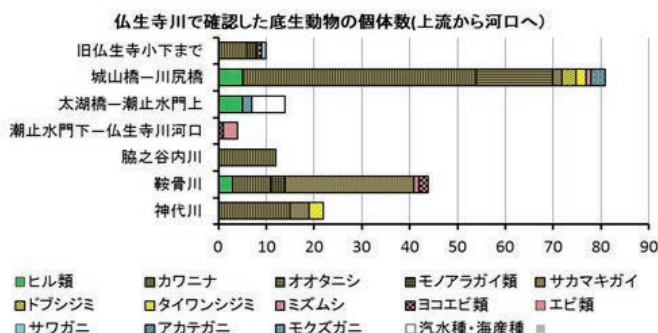


三千坊山アカガシ林の断面模式図



## 底生動物

純淡水種18種を含む22種が確認された。カワニナとサカマキガイが多数確認された。また、少数ながらオオタニシ、モノアラガイ、スジエビ、ミナミヌマエビ、モクズガニに加え、県内では近年数が減ってしまったサワガニとアカテガニも確認された。



オオタニシ



アカテガニ

## 魚類

21種が確認され、その内の16種が純淡水魚で、平野部を緩やかに流れる仏生寺川の特徴を示した。深原の水門が、海と川を往来するヌマチチブやウキゴリといった通し回遊魚の遡上を妨げていた。本流ではメダカやタナゴ類は確認されず、多数が見られたオオクチバスの影響が危惧された。

### 仏生寺川の出現魚類

No.	科名	和名	1	2	3	4	5	6	7	①	②
			河口	川尻橋	立会橋	深原の水門下	旧仏生寺小橋	広西寺橋	上流	堀田川	湖南小用水路
			9/8	7/1	9/8	7/1	9/8	7/1	9/8	8/21	10/12
1	ヤツメ科	スナヤツメ南方種									
2	コイ科	コイ	1	1		1	多数目視	7	4	++	●
3		ギンナ		51	2	38	1	13			
4		ウグイ			2目視	1	2	多数目視	9		
5		オイカワ			1	7	9	2	3		●
6		アブラハヤ					2	2			
7		タカハヤ						37	21	++	●
8		タモロコ	1		5	1	6	2	4		+
9		タイリクバラタナゴ					4				●
10		ヤリタナゴ								++	+
11	ドジョウ科	ドジョウ					1	2		●	+
12		ニシシマドジョウ				1	19	5	4	+	●
13	ボラ科	メナダ	目視		2目視	4					++
15	メダカ科	メダカ(北日本集団型)									+++
16	ナマズ科	ナマズ					1目視				2
17	ハゼ科	ヌマチチブ		4	8	1	10				+++
18		ウキゴリ		1	9	1	16	4			1
19		シシコハゼ				2	2				
20		トウヨシノボリ						8			+
21		カワヨシノボリ						31	2	2	6
22		ヨシノボリ類(未特定)			5			7	1	10	++
23	バス科	オオクチバス	目視	8	3	2	1	4	3		
	科数計		3	3	4	5	4	3	4	4	4
	種数計		3	6	9	13	11	6	4	8	7

各数値は採集された個体数 ++は10個体以下 ++は50個体以下 +++は100個体以下を示す ●は採集されたが個体数を記録していないもの



ヤリタナゴ



オオクチバスと食べられていたイタセンバラ (2001年9月26日)

## 両生類・は虫類

両生類は10種が確認された。平野部から山間部の広い範囲で水田にはトノサマガエルが、山間部の草地ではニホンアカガエルとヤマアカガエルが見られた。山間部にはため池が多く、クロサンショウウオやモリアオガエル、外来種のウシガエルがよく見られた。

は虫類は10種が確認された。平野部ではクサガメや外来種のミシシippアカミミガメが多く見られ、県内の生息分布がよくわかっていないニホンスッポンも見られた。県内では記録の少ないシロマダラが道路上で見られた。

### 仏生寺川流域で確認された両生類・は虫類

	平野部 (河口～仏生寺)	谷川沿いの集落 周辺(仏生寺～)	林道	周辺の池
クロサンショウウオ		○		○
ヒダサンショウウオ		○		
アカハライモリ		○		○
ニホンアマガエル	○	○		○
ニホンアカガエル	○	○	○	○
ヤマアカガエル		○	○	○
ウシガエル	○			○
トノサマガエル	○	○	○	○
シュレーゲルアオガエル	○	○		○
モリアオガエル		○		○
両生類の種数	5	9	3	9
	10			
クサガメ	○			○
ミシシippアカミミガメ	○			
ニホンスッポン	○			
ヒガシニホントカゲ		○		
ニホンカナヘビ	○		○	
ジュズリ			○	
シマヘビ				○
ヒバカリ				○
シロマダラ			○	
ヤマカガシ	○		○	
爬虫類の種数	5	1	4	3
	10			



トノサマガエル



シュレーゲルアオガエル



シロマダラ

## ツキノワグマの採食痕跡、ホ乳類

2010年11月に仏生川流域の林道約12kmを調査したが、クマ柵は確認されなかった。仏生川流域で調査した50本のカキの内、2010年以前に利用された木が1本(2%)あったが、2011年秋と2010年秋の利用は見られなかった。

ほ乳類は中型の7種(ニホンリス、ニホンノウサギ、キツネ、タヌキ、イタチ、アナグマ、ハクビシン)と大型の3種(ツキノワグマ、イノシシ、カモシカ)を確認した。ニホンジカも近年氷見地方で記録されるようになり、これらの大型ほ乳類4種はいずれも昔は氷見地方には生息せず(ニホンジカは明治時代に生息)、近年見られるようになったほ乳類である。調査流域ではクマは分布しているものの、現時点ではその生息密度は低いと予想される。



2010年以前の  
クマの爪痕

## まとめ

平野部の標高はほぼ0mに近いので、汽水域が長い。潮止めや中流の水門があるため、下流部の流れは止水に近い環境となっている。このため下流の汽水域にはメナダが生息している。また、流れの緩い下流域は、コイ科魚類やクサガメ、外来種のミシシippアカミミガメ、県内では記録の少ないニホンスッポンの良好な生息地になっている。外来種のタイワンシジミが、人家の近くに生息していた。ニホンアカガエルが全域で見られた。丘陵に多くあるため池は、クロサンショウウオやモリアオガエル、ウシガエルなどの産卵場所になっている。丘陵地から分水嶺まで、コナラ林が広く分布し、稜線や杜寺の後背地には、アカガシやシイが優占する照葉樹林やモミ林が残っている。